

講演会を熱くする座談会



会長(元講演会企画運営委員長) 河田 聡



副会長(前講演会企画運営委員長) 益 一哉



講演会企画運営委員長 民谷 栄一





2014年7月11日、東京都文京区の湯島天神のそば、応用物理学会6階会議室にて、現在の応用物理学会を背負って立ち、応用物理学会を変えたいと思っている講演会企画運営委員会「元」「前」「現」委員長が集い、講演会について話し合いました。

シンポジウムについて

河田:いくらデジタル化が進んで、何でもダウンロードできるようになっても、皆ミュージシャンのコンサートへは行きますよね。それと同じで、シンポジウムもライブであることに意味があるんですよ。僕もライブは聞きたい。ライブで話が聞けることに意味があるんですよ。

益:シンポジウムは人が集まるけど一般の人は話さないで、偉い人だけが話していますよね。

河田:知識だけならビデオで良いんです。偉い人と若い人の議論が必要であって。完成していない発表でもO.K.テーマを決めて共演するもの、皆で話すものだと思うんです。シンポジウムはテーマを作って話をする場、一般の講演はテーマ等は決めずにバラバラと話す場だと思います。

益:偉い、偉くないを分けるものではないんですよ。でも、今は、シンポジウムで話す人が固定化されてしまっていますよね。一般投稿は少ないし。

河田:シンポジウムが閉じられているんですよ。皆が話し合いをできるようなテーマ選びができていない。

益:聴講者は多いんですけどね。

河田:意見が出るようなテーマのシンポジウムにしたいですね。

河田:ところで、シンポジウムの数は減っているんですか？

事務局:今は18です。昔は規定がなかったもので、非会員が自分のやりたいものを自由に開催していたのですが、これでは非会員旅費補助等もばかになりません。今は講演会企画委員会できちんと精査しているので、これくらいの数で落ち着いています。

河田:シンポジウムについては引き続き委員会で全て精査する必要がありますね。委員会でのコントロールも引き続き必要ですね。

民谷:委員会では申請のあったシンポジウムの内容についてしっかり見えています。

(プレナリーセッションをすることについて)

益:以前は2日目の最初に現地のプレナリーセッションがありませんでしたっけ。

事務局:現状では、講演数が多いので、時間目いっぱい講演を詰めていて、間を開けることは難しいんです。

河田:セッションのやりすぎはダメですよ。スクリーニングしてポスターに回すべきですよ。

河田:2日目、3日目の朝とか、昼一で、時の人を呼んで、全ての部屋のスクリーンに映してできたりしないでしょうか。(影の声:かなり無理はあるが、それくらい考えたい)

チュートリアルについて

益:どういう経緯ではじめられたのですか？

河田:応用物理学会では、企業の参加者が減っているという問題があつて。それを解消するために何かできないかと。そこで、専門家のことや、新しい用語がわからない企業の人向けに、お勉強する機会を与えましょうと。また、自分たちが使った教科書の著者とか、あの先生に会ってみたいとか、そういうことを叶える場があつても良いなど。そういうことで始めたんです。

まず、チュートリアルを聞けば、その後のセッションを聞いても理解ができますよね。初日にチュートリアル、2日目に流行りのテーマのシンポジウム、3日目に一般セッション、という流れでやって、もう既にその研究テーマについて詳しいひとは3日目から参加しても良いし、詳しくない人とか、チュートリアルから聞いてみたい人は初日から参加するとか。そんな風にはできないかと。講義は必ずしも1人ではなくて、複数人で行っても良いし。

民谷:チュートリアルの提案は大分類からなんですよ。自分の分類から提案するのって実は出しづらいんです。違う分野から、こういう話が聞きたいと提案させたらどうでしょう。

河田・益:確かに自分のところからは出しづらいし、この分野の話が聞きたいと提案するのは良いですよ。

河田: 分子生物学会は皆機器のユーザーだけで、応物の人は皆装置のことについてはもうわかっている人ですよね。例えば、カーボンナノチューブの話とか、出遅れた人がいるんじゃないかと思うんです。企業の人がわからないことを知る講習会の場としてチュートリアルがあったらいいですよね。講習会なら参加費はもっと高いし、応物のチュートリアルは安いと思います。ほんとは2〜3万円しても良いところではないでしょうか。

今は講演会で発表する人しか来なくなってしまったけど、発表しないからこそ、情報収集が必要で、企業は学会に情報収集に来るべきです。知りたい情報が整理されていないから来ないのでしょか。

OSAとのジョイントについて

益: どういう経緯ではじめられたのですか？

河田: 日本にいる留学生・ポスドク・海外研究者はたくさんいますよね。だけど、学会は全部日本語で行われるから、この人たちは講演が聞けない。応物は日本の会議でしかない。じゃあこの人たちはどこで発表しているのか？ 韓国からはアメリカへ行っているんですよ。近いのに、韓国から日本には来ないんです。台湾も。なぜ、近くにいるのに情報共有しないのか。気合を入れて国際会議に行くのではなく、一般セッションで、招待より一般セッションで海外出身者+近隣のアジア人で情報交換をする場があっても良いのではないかと。そういうことで始めました。

河田: そこで、どうやって宣伝するかということになりますが、OSAは中国・韓国にもあるんですよ。学会はないけど、雑誌レベルで浸透している。OSAはアジア人会員が多いのに、講演会はアメリカでしか開催していない。そこで、私がOSAチェアだったから、スチューデントチャプターを日本に作ろうと言ったんです。OSAは、単体では日本で講演会はできない、また、応用物理学会もアメリカで講演会はできない。しかし、OSAと応用物理学会が力を合わせれば、話す場が作れる。OSAは応用物理学会のことをアジア会員に流してくれる。他の人は知らないけれど、ただ、国際化したいと言ってもだめで、パートナーソサエティがないと、海外の研究者は集められない。

MRSはアメリカの学会で、MRSの会員がアジアに多いわけではなくて、MRSとジョイントするのなら、どうい趣旨でジョイントしたいのか、なぜやりたいのかという理念が必要になってくる。アジアに住んでいるMRS会員を取り込むような応用物理学会の方針が先にあるべきだと思います。KPSとか台湾の学会とか、アジアの学会と組んで、そこにも宣伝してもらおうお願いしたらどうでしょうか。

大分類の統合について

益: 大分類3、4、5が統合して、3. 光・フォトニクスになりましたね。応物は半導体のイメージがあったけど、はっきり「光」と名前の付いた大分類ができたから、今年は登壇者が増えたそうですね。北海道効果もあるのでしょうか。半導体も今後1つにまとまる予定ですね。

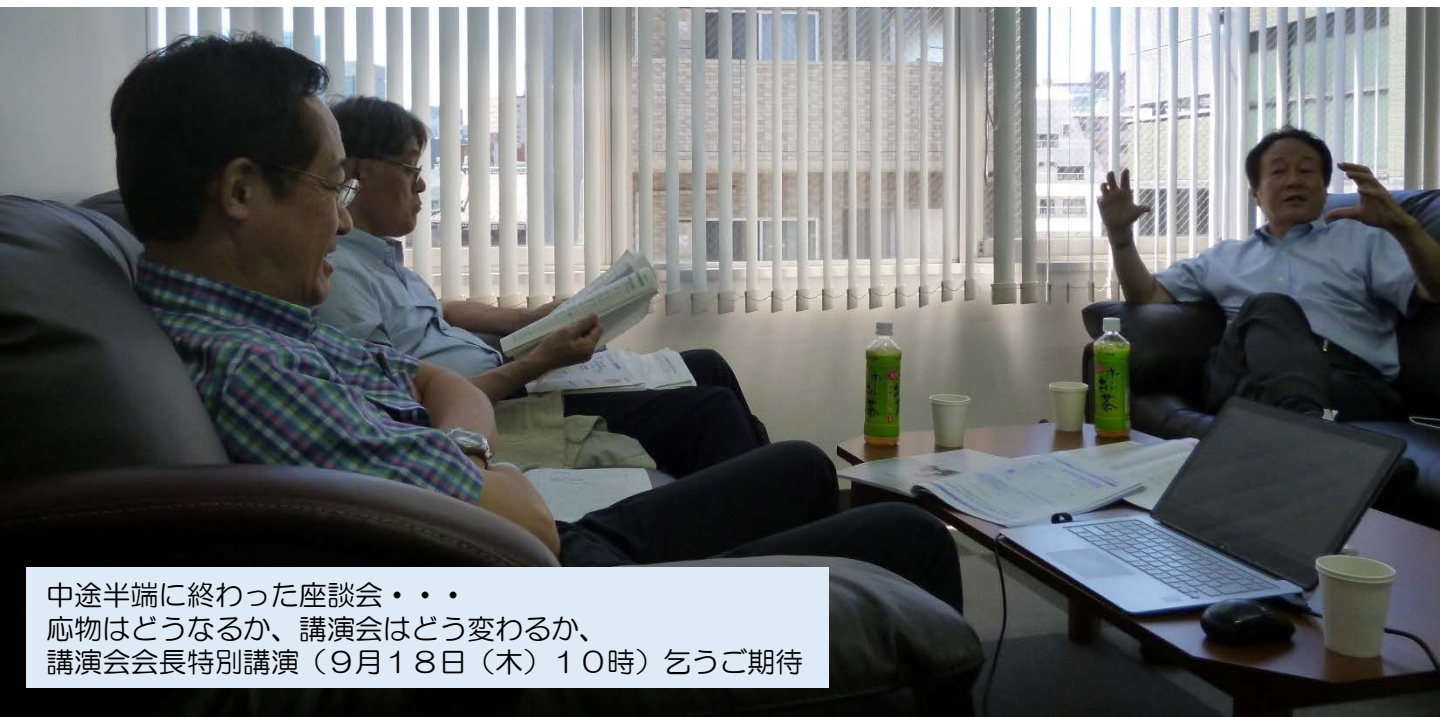
国際会議場での開催について

益: 2015年秋の講演会で、初めて大学ではなく、国際会議場を使うことになったけど、大学をやめて国際会議場を使おうというのは、展示会・ポスター会場の環境を良くしたいというところからきたんですよね。

事務局: 最初は冷房がなくて環境が劣悪だということからでした。

河田: もう、この規模で大学での開催は難しいですよ。大学は都心にありませんし、40教室+(展示会・ポスター講演会用の)3000㎡の会場があるところはないです。これからは大学もオフシーズン使用しないはずがないし、大学だからと言って、空いていないということはないと思います。それに、東京や大阪の人は地方開催でも良いけど、この規模の学会で地方開催したら、地方から地方へ移動しなければいけない人はもう限界ですよ。人と人が合う場所なのに、アクセスが悪いのでは意味がないです。夜が遅くてなっても帰れる場所で開催しないと。山の手線の内側とか、東海道線のライン上なら良いのですが。

事務局: 現状そのような条件を満たして協力してくれるような大学はなかなかないですね。展示会をできるような広い会場もな



中途半端に終わった座談会・・・
応物はどうなるか、講演会はどう変わるか、
講演会会長特別講演（9月18日（木）10時）乞うご期待

かなかないですし。

河田: 展示会なしなら開催地は広がりますよね。展示会は必ずしも学会と同じ時期である必要はないですよ。展示会は展示会で、会員へのサービスとして実施しても良いのでは。もちろん何でも展示をしてよいというわけではなくて、会員サービスにつながる展示となるようスクリーニングは必要だけれども。展示会を目的に来てもらえるようにならないとだめですよ。企画力が必要ですね。

益: 出展者に、なぜ展示を出さないのか、出しているところには出してくださいと頼みに行く、出展業者のニーズを聞きに行く必要がありますね。次回講演会の時に現地で出展者と話をしましょう。

河田: 僕も出展しているけど、少なくとも今の環境では、機器を置きたくならないですよ。もっと綺麗な環境でないと。

まだまだ熱い話し合いは続きそうでしたが、時間が来たので今日はここまでで。ここには記載できないオフレコの内容、話し足りないことは、秋の講演会の会長特別講演にて。乞うご期待！

講演会に関するご意見・お問い合わせは
応用物理学会講演会担当 meeting@jsap.or.jp
までお寄せください。



座談会の続きは・・・



第75回 応用物理学会 秋季学術講演会

応用物理学会会長
河田 聡 特別講演

「応用物理学会はこう変わる」



日時：2014年9月18日（木）10:00-11:45（予定）

会場：北海道大学 札幌キャンパス B3会場

参加費：無料（講演会への参加申込みは必要ございません）

※講演会の取り組みとしては初めての、動画配信を予定しております。
詳細は応用物理学会のHPに掲載予定です。